

本書の掲載内容に下記の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。初版時からの訂正を載せております。お手持ちの本では修正されている可能性もございます。

頁	箇所	誤	正
66	表 2 (注)	1 / 10 なら右以外の組み合わせ	1 / 10 以下なら×の組み合わせ
71	表 「危」の標識 地の色	黄	黒
72	2の③	「手動(又は自動)サイレン」	削除
81	問題 14 解説 最下行	赤リン、アセトン、二硫化炭素の3つ	赤リン、三硫化リン、アセトン、二硫化炭素の4つ
82	解答 問題 14	(3)	(4)
90	問題 25 解説 下から3行目	上記の2に該当するので	上記の3に該当するので
	問題 25 解説 最下行	(5)は3の	(5)は4の
91	問題26 解説 1行目	(4)は5に	(4)は6に
	問題26 解説 6行目	前問の解説の4.より	前問の解説の5.より
111	問題 52 解説	5年を超えないものは	15年を超えないものは
134	問題88 解説 2行目	第4、第5類なので	第4類なので
	問題 88 解説 最下行	「火気厳禁」と「衝撃注意」	「火気厳禁、衝撃注意」
141	問題 97 解説	このうち…なります。	※削除します
142	問題 97 解答	(1)	(2)
196	表「酸と塩基の強弱による分類」	※「弱塩基」欄の次のものを削除します	炭酸ナトリウム (Na ₂ CO ₃)
203	側注 還元剤	相手から電子を受け取る	相手に電子を与える
276	問題 3 表中	D 冷却効果、窒息効果	D 窒息効果
299	表 ④	亜塩素酸カリウム (NaClO ₂) 亜塩素酸ナトリウム	亜塩素酸カリウム 亜塩素酸ナトリウム (NaClO ₂)
301	中央	初期消火には・・・炭酸水素塩類・・・	初期消火には・・・リン酸塩類・・・
321	問題 22 選択肢 C	・・・分解して有毒ガスを発生する。	・・・融解せずに分解を始める。
329	表 1 消火	③硫黄と④鉄粉の間のライン無い ④鉄粉と⑤金属粉の間にライン有る	③硫黄と④鉄粉の間のラインを入れる ④鉄粉と⑤金属粉の間のライン削除
332	表 7 性状欄	4. 水や酸…	4. 酸…
357	表 1 ⑨ 形状欄	暗褐	暗赤
363	表 9 性状欄 2.	可燃性で有毒の	可燃性の
393	表 7	引火点⇒20℃	引火点⇒-20℃
394	表 8 性状欄	※「7. 電気～しない」を削除して8. を7. にする	
400	表 14 アニリン 性状 2	水溶液は弱酸性	水溶液は弱塩基性
425	問題 5 解説	E ～となります。	E エチルメチルケトンパーオキシドのよう

			に分解しやすいものは、蓄熱しないよう、通気性のよい容器に貯蔵する必要があるので、誤りです。 従って、正しいのは、B、Cの2つとなります。
426	解答 問題 5	(3)	(2)
428	表 1 ②硝酸エステル類 水溶性 1 行目	×	△
	表 1 ②硝酸エステル類 水溶性 2 行目	△	×
456	問題 5 解説	<p>※次のものに差し替えます</p> <p>第 6 類の危険物の火災には、一般に C の強化液消火剤等の水系の消火剤や D の膨張真珠岩等を含む乾燥砂などを用いますが、C の強化液消火剤は、フッ化臭素、フッ化ヨウ素が水系が厳禁なので、「すべて」という条件に当てはまらず、不適です。また、「ハロゲン化物消火剤 (⇒A)」「二酸化炭素消火剤 (⇒E)」「粉末消火剤 (炭酸水素塩類を含むもの)」も第 6 類危険物には適応しないので、結局、第 6 類のすべての危険物の火災に対し有効な消火方法は、B, D の 2 つということになります。</p>	
	問題 5 解答	(3)	(2)
462	表中 最下行	・粉末 (炭化水素塩類)	・粉末 (炭酸水素塩類)
499	問題 20 解答	(5)	(4)
	問題 20 解説	(5)の酢酸	(4)の酢酸

以上